

財団法人環境科学技術研究所における研究評価の実施結果について

平成19年 3月29日

財団法人 環境科学技術研究所

財団法人環境科学技術研究所においては、調査研究活動の効率化及び活性化を図ることを目的として、調査研究課題について、外部の評価者による評価を実施しています。今般、「天然放射能調査」の事前評価を行いました。その概要は以下の通りです。

1. 「天然放射能調査」に関する調査研究の概要

① 調査研究内容

青森県民が、天然放射性核種から受ける被ばく線量を明らかにする。また、森林内に生息する哺乳類が、天然放射性核種から受ける線量を評価する手法を開発する。

② 調査研究期間

平成18年度～平成22年度（5年間）

③ 調査研究の目標と計画

大型再処理施設から放出される放射性核種による周辺住民の被ばく線量及び環境生態系への影響を評価するため、青森県民が天然放射性核種から受ける外部及び内部被ばく線量を明らかにする。外部被ばく線量については、六ヶ所村周辺地域を対象として詳細な分布を明らかにする。内部被ばく線量については、六ヶ所村と青森市において日常食試料及び市販食品試料を用いて内部被ばく線量を計算する。これらを合わせて県民線量を評価する。

森林内に生息する小型及び中型哺乳類が天然放射性核種から受ける線量を評価する手法を開発することをめざし、それらの生息実態と体内部位別放射能濃度、森林大気中ラドン濃度、森林内ガンマ線線量率の調査を行う。

2. 評価の概要

① 評価の種類 事前評価

② 評価実施期日 平成18年8月2日

③ 評価結果

- 1) 試料の妥当性、年次変動に配慮しながら実施することを期待する。
- 2) 県民線量は、国内のデータも参考にして評価することが必要である。生態系の調査は、国際的な動向を踏まえつつ、研究を進めることが望まれる。

3. 評価に対する対処方針

- 1) 試料の選択や採取に関しては、国内外の先行例や文献等を参考に、代表性に留意しながら実施する。年次変動に関しては、現在の計画でも一部考慮しているが、必要に応じて対応したい。
- 2) 県民線量は、国内外のデータを参考にして評価したい。森林生態系の調査は、世界的にも始まったばかりの分野なので、文献や国際動向を十分に調査し、本調査の円滑な遂行に役立てる。

4. 評価委員

主査	中村 尚司	東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター
	斉藤 公明	日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究部門
	庄司 博光	青森県原子力センター 安全監視課
	庄次 眞司	放射線医学総合研究所 企画部 企画課
	安井 明美	農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 食品分析研究領域
	山本 政儀	金沢大学自然計測応用研究センター 低レベル放射能実験施設
	吉田 聡	放射線医学総合研究所 放射線防護研究センター 環境放射線影響研究グループ

5. 研究評価に対する問合せ先

財団法人 環境科学技術研究所 広報・研究情報室

担当 石川敏夫

電話 0175-71-1200 (代表)

FAX 0175-71-1270